

詩集 風の旅人

(風の香りと愛を感じたい)



飛鳥 圭

h a j i m e n i

h a j i m e n i

日頃の些細な日常生活の中で詩的であろうと感じられる様子を綴ってゆこうと思います。
そうそう詩的な感じってどんな感じだあ？とつっこみをいただきながら、麗しき昔日の思いを
胸に秘めながら日々の詩作に励んでいます。

一緒に小さな幸せを感じませんか。

皆さん方も光に満ちていついつまでも輝いていますように。

2018年5月10日 飛鳥 圭

* h a j i m e n i . . . 1

* m o k u j i . . . 2

.

I (風と友だち)

* 孤独 . . . 3

* あなたは風なのですか . . . 4

* 風が愛を運ぶ . . . 5

* あなたの通る道 . . . 6

* かぜの彼方 . . . 7

* 風が教えてくれるもの . . . 8

* 風の詩 . . . 9

* 風と友達 . . . 10

* 清々しい朝 (あした) . . . 11

* 君の瞳 . . . 12

.

* 明日 (あした) へ . . . 13

* 新しい明日 . . . 14

* 君へのうた . . . 15

* よく見ないと . . . 16

* 風のように . . . 17

* 備えあれ . . . 18

* 朝景色 . . . 19

* 非常識 . . . 20

* 寒くなって . . . 21

* 旅・たび . . . 22

II (会えて嬉しい)

* きらきら . . . 23

* 良いことって . . . 24

* 薄紅色 . . . 25

* 愛がいっぱい . . . 26

* あのとき . . . 27

* 押して推して . . . 28

* 諦めたら? . . . 29

* ひまわりの終わる頃 . . . 30

*リンリン電話・・31

*西に行けば・・32

.....

*叱られて・・33

*雲ながるる果てに・・34

*走って走って・・35

*上を向いて・・36

*丘にある家・・37

*紫陽花の花・・38

*40cm・・39

*初めての・・40

*好きな言葉・・41

*風と花見と・・42

III (うれしい胸騒ぎ)

*4月の詩・・43

*懐かしきこと・・44

*昨日はきのう・・45

*春の日に・・46

*恋心・・47

*名前って・・48

*君のひとみ・・49

*雨の中で・・50

*思い出したくない・・51

*でんわ・・52

.....

*雨が降ってるよ・・53

*ただいま・・54

*移ろいの中で・・55

*墓参・・56

*昔の扉・・57

*思いつき・・58

*夢の先は・・59

*羽根を怪我したトンボ・・60

*落ちていく・・61

*ラッキーセブン・・62

IV (夢のなか)

- *あきらめないで・・・63
- *好きになると・・・64
- *水無月・・・65
- *希望と夢と・・・66
- *元気ですか・・・67
- *天と地と・・・68
- *未来って・・・69
- *今日という日に・・・70
- *気分を変えて・・・71
- *この旗とともに・・・72
-
- *ひみつ・・・73
- *君と歩いた日々・・・74
- *追想の日のなかで・・・75
- *電話でね・・・76
- *母の声・・・77
- *コオロギ・・・78
- *年金生活・・・79
- *6月の風・・・80
- *びよびよおん・・・81
- *とても大好き・・・82

V (ふるさとへ)

- *つまずいても・・・83
- *風よ教えて・・・84
- *いい夢を見て・・・85
- *生きている・・・86
- *罪と後悔と・・・87
- *悪いこと・・・88
- *挨拶とありがとう・・・89
- *バイクが空を飛ぶ・・・90
- *空は青い・・・91
- *雨の一日・・・92
-
- *夢をみた・・・93
- *励まし・・・94

- * 生きる・・・95
- * 不器用・・・96
- * 懐かしい顔・・・97
- * 仮面をつけて・・・98
- * ようこそ・・・愛しき君へ・・・99
- * 僕からあなたへ・100
- * 秋色に染まる日々・・・101
- * 郷愁・・・102
-
- * a t o g a k i・・・103

孤独

— 孤独 —

愛とは

恋とは

死とは

生とは

欲とは

悪とは

未来は

過去は

今は

考えるとは何だろう

空白の時間が流れる

一人の大切な時間

地球の回転が速いのか！

僕の日が過ぎてしまう

あなたは風なのですか

ーあなたは風なのですかー

風は あなたからの誘い

風の向くまま 歩いて見るわ

風は あなたの熱きメッセージ

風のことを 聞いてみるわ

風は あなたの腕まくら

風の流るるに 眠ってみるわ

風は私を 溶かしてくれる

風は私を 愛してくれる

風が愛を運ぶ

—風が愛を運ぶ—

春の風

それはあなたのほほえみ

夏の風

それはあなたの

そよ風のようなやさしさ

秋の風

それはあなたとの心のふれあい

そして今 冬の風

それは寒さを感じさせない

あなたのあたたかな愛

そしてあなたへの・・・

愛に気づく心の安らぎ

あなたの通る道

—あなたの通る道—

地下鉄淀屋橋をおりて
大江橋を渡る
まじかに中ノ島遊歩道
川沿いの街灯
石造りのベンチ

肩をよせあうカップル
夕暮れの川面に映える
ネオンと初秋の風が
頬に心地よい午後7時
あなたは毎日・・・
ここを通るのですね

今日も素敵な笑顔を残して・・・
私のまえを通りすぎていきます

かぜの彼方へ

時々現実から離れて・・・空想と夢のなかを彷徨うもいい！
ああ・・・僕は空想と夢のなかに来ています
そうなのです・・・今、風の彼方にいます

－かぜの彼方へ－

かぜの彼方へ行かれましたか
・・・とても遠く、ながく長い道のりです
何十万里・・・いや何百万里！
でも・・・いろいろなことを教えてくれます
かぜの彼方に行ってみたい

僕は行ってきました
凄く速い風に乗っけてもらって
かぜの彼方へ行く途中・・・
恋のはなしや、彼方のようす、いろんな
お店など・・・
いろいろな話しをしてくれました
・・・楽しくてやさしい風です

今年は風が主役になって・・・
たくさんの幸せを運ぶようですよ
僕の場合はありし日の妻に会える
ようです
いつかは教えてくれませんでした
楽しみになさいと言われました
その日が来たなら・・・
かぜの彼方へ会いに行くでしょう

風が教えてくれるもの

—風が教えてくれるもの—

瞳を閉じれば・・・
耳をすませば・・・
・・・風がいろいろなことを教えてくれます
遠い国の素敵なお話が聞こえてきます
これから空想の世界へ出かけてきます

雪の国からはお姫様のおめでたいお話し・・・
片思いが実って憧れの王子と結ばれたそうな
森の国では一日で緑がいっぱいになったとか
花の国ではすべての花が咲き乱れたそうな
良いことばかりもあるのですね？

良いことは・・・人々に幸せを運んでくれます
風が・・・そっと教えてくれました
厳しい冬を耐えた人には
・・・ご褒美があるようです
明日は・・・すべての希望が叶いそうですよ

－風の詩－

初夏の風は新緑を含んでいて
さわわかで好きです
薄地で長袖のボタンダウンのシャツが
風にそよいで・・・
ほっぺには甘い香りを伝えてくれます
風からのメッセージがあるのも
楽しいですよ・・・Ra ra ra
すてきな出会いがありましたか！
素敵な恋が始まりますよ・・・
正直に告白しちゃいましょう・・・
初夏の風はこころまで
愉快にするのです・・・ラ ラ ラ

風と友達

風と友達になろう・・・
風は僕からの無言の愛・・・愛しいあなたへ
・・・そっと私の心を伝えます
あなたに出会って・・・
あなたを好きになってよかった・・・

－風と友達－

風がそっと近寄ってきて
頬にキスをする・・・
初秋の風はなぜか切なくて
ひとが恋しくなってくる
・・・でも風が僕の思いを運んで
あなたに伝えてくれるのです

風は僕と友達・・・
冬の初めにはあなたのもとに
・・・帰ると伝えてください
あなたの好きな首飾りと
僕からの愛をもってかえります
それまで待っていて下さい・・・

清々しい朝（あした）

ー清々しい朝（あした）ー

清々しい
朝の風が吹き
閉じた筈の
厚手のカーテンが
風で開き・・・
はためいている

心地よい朝の風が
遥か彼方の
幸せの言葉を
伝えてくれるのです

君の瞳

—君の瞳—

眼は口ほどに
ものをいい・・・

ほんとに綺麗な瞳は
見ていて気持ちがいい
真心が伝わってきます

敵意のある瞳は
見ていてキツイ
こんな眼はしたくない
顔の表情まで
きつくなって
人相も悪くなる

輝く瞳・・・
行動も精悍で
動きも早い
夢を語ってるようだ

やさしい眼差しって
心に届きます
そして・・・
僕の心を癒して
くれるのです

明日（あした）へ

人として・・・

この言葉は好きですが・・・すごい重みがある。

人として・・・特に人間がしてはいけないことを指す言葉・・・？

理性・モラルにおいて！

人としてしなければならない当然の行い・・・義務、使命！

この言葉を口にするには・・・大変な勇気がいるのです。

それ故にあまり口にしたことがありませんが・・・心の中ではいつも最初に思っていて気にしている言葉なのですが・・・。

理性が負けてしまって・・・欲望のまま、本能のまま行動することが稀にあります。

自分って・・・「悲しい人間だ」と反省しきりなのですが・・・妙に自分自身を許していてまた同じ行動をしてしまうことがあります。

今一度「人として・・・」について考えてみたいと思うのです。

ー明日（あした）へー

明日への道は・・・

楽じゃないかも

知れないけれど

強い心でいよう

夢をもって進めば

自ずと道は開け

太陽があなたに向かって

輝いてくれます

人はひとりでは

生きていけないけれど

誰かが

いつも見守ってくれている

生きるって素晴らしい

明日のことは・・・

思い悩まずにいよう

あしたは楽しいことが

待っている明日なのです

新しい明日

— 新しい明日 —

新しい朝
新しい今日
そして未来の明日

何もかも新鮮で
朝の空気は
何故だか凜として
気の引き締まる
心地なのです

新しい朝
燃えるような
希望の朝

そして
新しい明日

私たちの進む道は
険しいけれど
希望で輝いて
いるのですよ

君へのうた

—君へのうた—

いつも笑顔で
いつも優しくって
いつも可愛くって

小さな君は
僕にとっては
大好きサイズで
見上げた瞳が
たまらなくって
涙が出てきちゃう

ときどきお茶目で
汚い言葉も
君だと上品になって
うーん
これが良いんだ

何故なんだ
もう好きになって
僕の心は大変なんだ

だから僕は・・・
いつも歌ってる

大好きな大好きな
君への歌を
今日もまた歌ってる

よく見ないと

ーよく見ないとー

ネコの置物？

いやいや・・・

少し動いたような

気のせいかな

陽射しがさしこんで

ひなたぼっこかな

まんまるおめめの

ネコちゃん

コンニチワって

声をかけたら

さらに目を丸くして

こちらをジッと

見つめてる

小春日和の

暖かい昼下がり

しっかり見据えて

よく見ないとね

心までぼかぼか陽気

なんだから

風のように

—風のように—

風が吹いている
花散るように
そよぐ風・・・

冬のはじめに
さざんかが散る
ひらひら落ちる

道端は落ち葉にあふれ
そこには・・・
赤色の花びらや
赤い紅葉

そして・・・
黄色に染めた銀杏

風が踊り
風が舞い・・・
落ち葉の絨毯を
かき混ぜる

風のいたずらか
吹く風が
冬を知らせて
何事もなく
過ぎ去ってしまう

ほんと風のように
秋が通り過ぎてしまった

備えあれ

備えあれば憂いなし・・・。
僕の場合ですが、インフルエンザの予防接種を受けてきましたが、何故か
気分的に安心します。

ー備えあれー

しっかりと準備すれば
ほとんどは何事も
起こらないんだから

保険もそうだが
入っていると
病気にもならず
怪我もしない

備えあれ・・・
油断大敵
憂うこともなく
心配事が減るって
大きな心のゆとり

ただただ前を進むに
予測しないことや
障害があっては台無しだ
心せよ・・・
備えあれ

朝景色

—朝景色—

初冬の午前7時過ぎ・・・
朝日が昇ってくる
夏には見えていた
遠くの山並みの景色が
朝靄に包まれて
ぼやけている

いつも見えていた
電車の走る姿も
湯煙のような中に
ぼんやり見えるんだ
でもカタンコトンと
走る音だけはしっかりと
聞こえてくる

チャリチャリと
自転車が進む人たち
子供たちの通学模様が
チラホラと目につき
ふっと目の前を見ると
吐く息が白く見えるんだ

今日はカラスの鳴き声じゃなく
小鳥の鳴き声が賑やかで
たまにベランダに出ると
今までと違った装いなんだ
今日の新しい朝・・・
明日はどんな朝景色なのか

非常識

ー非常識ー

非常識って・・・
皆がすれば常識に
変わるんじゃない

常識人って
何故かつまらない
こんなこと思うって
非常識かな？

頭の中で思うって
別に良いんじゃないか

突飛なこと
人がしないことって
新鮮もいいところ
迷惑じゃなければ
良いよね

寒くなって

－寒くなって－

風邪を引かないよう
インフルエンザに
罹らないようにねって

会う人会う人が
温かいお言葉を
かけて下さいます

呼吸器疾患って
大変な病気なんだけど
温かい励ましが
気を楽にしてくれる

寒ければ温かくし
冷たければ
暖をとり・・・

身体を労って
しっかり予防して
だから・・・
予防接種にも行って来た

寒くなって・・・
人の温かい心が
とてつもなく
うれしいのです

冬来たりなば
春遠からじ・・・

旅・たび

そうそう・・・誕生日の今日（?歳です）・・・実家へ帰ります(笑)
ってことでこんなpoemに・・・

ー旅・たびー

いろんな旅がある
ひとり旅
二人ずれの旅
仲良しクラブの旅
社員旅行・・・

そうそう
旅かどうか？
実家への帰省の旅
そしてひとり旅

たまには二人で
連れだって出かけたたりって
思うのだけれど

これって
数えるほどしか
経験していないんだ

気兼ねなく
寂しさもあるけど
ひとり旅って
良いんじゃないかって

知らない土地へは
心細くって
多い方が良いかなって

旅・・・
行く先々で

起こるいろんな出来事
トラブルはごめんだが
旅って夢がある

思い出づくりの旅って
あらためて思うと
何故だか
行く前から
ときめいてしまう

きらきら

今思うことは・・・健康が一番って事ですよ(笑)
そうそうpoemだけは、ポジティブ思考で、明るくいかなくちゃって・・・

ーきらきらー

きらきら・・・キラキラ
何事も輝くって
気持ちがいいもんだ

心が輝いて
人生も輝いて
そして・・・
恋も輝いて・・・えっ？

今日も輝いてる？
うーん
明日も輝いてる・・・
未来が輝いているって
これにも増した
幸せはないんじゃないか

きらきら・・・キラキラ
そうなのです
僕は今も輝いている

良いことって

－良いことって－

聞く耳がある者は聞くが良い
人の心の中に入って来るものは
良いことばかりじゃない

悪いことは何度も入ってきて
なかなか出て行かない

反対に良いことは
出て行かないで欲しいのに
すぐに出て行ってしまふ

だから・・・ねえお願い！
頼むからってお願いしても
出て行こうとする

幸せも同じなんだ
一瞬のうちに終わってしまう
不幸なことは長く続くのに

だから・・・
幸せなことがあれば
心ゆくまで楽しまなきゃ

薄紅色

— 薄紅色 —

薄紅色した花って
初恋の花ですか？

好きな女性は
頬が薄紅色して
瞳が輝いてる

恋色って・・・
こんな感じですか

いつも会っているのに
気がつかなかった

そうだ・・・
今日こそは忘れずに
君をじーっと見つめて
好きだよって
言ってみよう

愛がいっぱい

ー愛がいっぱいー

多くの人たちから
かまってもらって
愛をいただいて

少しは
愛をおすそ分けして

何処もかしこも
愛がいっぱい・・・
みんなが愛を感じて
愛がほとばしる日本に

日本に生まれて
良かったって言えるように
絆ってそう言うことなんだ

僕のまわりには
愛がいっぱい
そして・・・
今日も幸せなんだから

あのとき

ちょっとちょっと・・・？

こんな所があったて・・・もっと若い時にあったらね(笑)

いや一度行ったことのあるような！！

不思議に昔だけど、出かけたときのことを思い出しました。

—あの時—

ふっと思い出しては

ため息ばかり・・・

あの時って

好きって

何故・・・

言えなかったんだろう

思い出しては

後悔してるんです

後悔するなら

ダメもとで

言えば良かったって

自分自身に

何故か・・・

腹を立てているのです

終わったあの時なのに

今はもう懐かしい思い出に

変わってしまっている

押して推して

大相撲〇場所だからかなあ・・・こんなp o e mに！
それはよしとして・・・拙いです・・・もっと成長しなくちゃ・・・。

ー押して推してー

前に出て・・・
前に押して
引き下がらず

寄りきりって
オーソドックスすぎるけど
これがなかなか大変なんだ

我は押さずに
控えめで・・・
弱い心は前に出して
強気で辛抱強く
押していこう

推して推して・・・
良いものは良いつて
人に勧めて・・・
みんなニコニコ顔に

良いものは・・・
皆に勧めて
皆が幸せならば
ハッピーエンド

諦めたら？

ー諦めたら？ー

諦めが肝心って
何処かで聞いたフレーズ

いやいや僕は・・・
かなりしつこく
最後まで諦めないよ

諦めた時点で
何事も終わりなんだ
しっかり・・・納得して
諦めなきゃ

そうそう
もし諦めるなら
その後のフォローが
大事なんだ

次の目標にむかって
またまた頑張って
チャレンジしなきゃ

ひまわりの終わる頃

—ひまわりの終わる頃—

花びらも垂れてしまって
もう我慢出来ないって
感じになってしまった
ことはもう終わった

僕の季節だって
キリッと背筋を
伸ばしていたのに

この頃は太陽にむかって
たくさんたくさん
笑顔を見せていたのにね

ほんと・・・今はもう
元気もなくなってしまった
寂しいけど
あとはよろしく頼むよ・・・
また来年頑張るから

でもよくやったよ
ありがとうって言うと
最後に笑ってくれたんだ

リンリン電話

ーリンリン電話ー

りんりん・・・りんりん

ルー・・・ルルルウ・・・ルルルウ

電話の信号音が

1階のリビングからや

2階でも鳴ってるんだ

3台もあるとにぎやかなのだ

知らない人がいたら

びっくりものだ

りんりん、ルルルウ

りんりん・・・ルルルウ

ほんとにぎやかで楽しいよね

はあーい

もしもし・・・！！

何かご用ですか？

りんりんルルルウ

りんりんルルルウ

西に行けば

－西に行けば－

西に行けば何かある
何故か東よりは
良いことありそうな
気になる西の方向なんだ

東から陽が昇り
陽は西に沈む・・・
坂道でいえば
下り坂のようで
何故だか気が楽なんだ

じゃあ西へ行こうか？
何があるのか
楽すりゃ苦ありかな

上りより・・・
下りは楽なんだから
いずれは・・・
苦しいことがあっても
仕方がないかなって

訳の分からない
理屈ばかり言ってないで
西へ行こうっと

叱られて

－叱られて－

叱られるって・・・

好きな人は

いないんだけど

叱られるって

その数だけ

利口になれる？

叱られるうちが

花って言うけど

ほんとうはイヤなんだ

叱るほうもイヤだしね

叱ってくれて

ありがとうって

アドバイスを・・・

ありがとうって

素直な気持ちで聞くと

自分のためなんだって

前向きになれるんだ

叱られて

叱られて・・・

僕は進歩し成長した

雲ながるる果てに

—雲ながるる果てに—

雲ながるる果てに

あの日・・・

8月6日の出来事がある

きこの雲に

よく似た雲を見つけると

現実とは思えない

光景が浮かんでくる

雲ながるる果てに

8月9日の出来事がある

もう思い出すのはごめんだ

・・・と言いながら

夢に現れるのだ

何故なんだ・・・

戦後に生まれた僕なのに

こんなことって

死ぬまで続くのだろうか

むかしに見た映画なのに

あの光景だけは

忘れてはいないのだ

走って走って

ー走って走ってー

走るって

やっぱり・・・

風をきって走ろう

疾風のごとく

前を見て

何も考えずに

これがいいんだよ

何もかも忘れて

一生懸命に走っていると

考える余裕なんて

ないものなあ

だから

嫌なことなんか

いつの間にか

忘れてしまって

どこかに・・・

飛んで行ったよ

さあさあ

走って走って

風をきって走ろうっと

上を向いて

—上を向いて—

上を向いて歩くって
つまずいて転ばないの

僕は・・・
何故か視線は
下を見ている

悲しいこともないのに
そして何か良いものが
落ちていないかって？

そんなことは
ないのだけれど
今度は
目線を上にして
歩いてみるよね

何か景色が違うんだよね
胸をはって歩くって
感じがして・・・
なかなか良いもんですね

威張ってるというか
ちょっと優越感が出て
僕って偉くなったのかなあ

丘にある家

—丘にある家—

そよ風が吹き
緑の木々が
そよぐのです

ここに君がいて
僕がいます
でも・・・
今は時も過ぎて
それも昔のこと

そうなのです
君のいない
丘にある家

僕は君の名を
呼ぶことで
あの青い空と
美しい朝を迎え
君とk i s sした
あの日を想うのです

紫陽花の花

— 紫陽花の花 —

そろそろ？

まもなく・・・

紫陽花が咲く頃に

紫陽花って

つんとすました感じ

あじさいだと

ねえねえ・・・

何か話してって

語りかけてきそう

結局は・・・

どちらも

大好きなんです

これから通るたびに

じっと見つめて

声をかけることにします

みずみずしい花びらの

露にぬれてる様は

大好きな

君の唇のようです

誰も見てなければ

目をつむって

そっとキスしますね

4 0 c m

— 4 0 c m —

身長の $1/4$. . .
指先から肘までの
長さなんだ

4 0 c m
パソコンと差し込んだ
コードの幅なんだ

4 0 c m . . .
好きな人との
良い感じの距離

手をのばせば
肩を握れちゃう

強く抱きしめると
ちょうど
4 0 c m なんだから

ふつうに歩いての歩幅
君といっしょに歩く
好きな 4 0 c m です

初めての

—初めての—

初めて・・・
好きになった人
初めて
手をつないだ

胸の鼓動が
心にまで響いて
それが
ますます大きくなって

嬉しすぎて
喜びすぎて
希望に胸を膨らます
正直なんだ心って

初めての
はじめての
好きになった人と
今・・・二人っきり
一緒にいてるのです

好きな言葉

—好きな言葉—

かがやく日に
いつまでもいつまでも
さまよう夢の中

陽光が降りそそぐ
せつない景色に
僕は何故だか
白い雲の中へ
逃れてしまう

原稿のない詩って
心の中に
刻む詩なんだから

手を広げて
空を仰ぎ見て
大きく呼吸するって
生きてる証って
自然に思ってしまう

そして
好きな言葉を
大声で叫ぶのです

風と花見と

今は・・・花の季節だからこんなpoemに！

ー風と花見とー

花びらが・・・
風に揺れて
コンニチワって
おじきをしてる

開いた花びらは
春の陽光に輝き
とても可愛い・・・
少女の瞳のよう

じっと見ていると
こちらまでが何故だか
恥ずかしくって
下をむいてしまった

そんな初恋に似た
想いがして・・・
今日は風といっしょの
花見なのです

4月の詩

春はあけぼの、やうやう白くなりゆく山際、少しあかりて、紫だち
たる雲の細くたなびきたる・・・清少納言、枕草子の一節・・・。

と言うことでKさんも春の詩を？

えっ・・・もう出来ちゃったんですが・・・拙いって？

－4月の詩－

春に輝くもの
希望に燃ゆる顔と
新しき道・・・

新年度の言葉
人との出会い

桜並木を
歩いて行くと
そこには夢見ていた
希望の光があり

花びらが陽光に
かがやいて・・・
いつしか
風に吹かれて
落ちてくる

その花びらを
手にとると
久しぶりだねって
懐かしい声が
聞こえるのです

何てことはない
僕の後ろに
愛しい君がいる

元気だった？

明日になったら

もっと

良いことがあるよって

僕を後ろから

抱きしめるのです

懐かしきこと

－懐かしきこと－

麗しきかな
ふるさと・・・
そして
愛しき人たち

僕が愛した人・・・
あの頃の
一番大切な出来事

歳を重ねるたびに
懐かしきことって
なぜか心躍る
過去への想い

それは・・・また
愛した人に
会えるのだから

昨日はきのう

ー昨日はきのうー

過ぎしことを
悔やんでも
仕方がないのに

そして
明日のことをも
悩んだりして

まだ明日が
来ていないのに

明日は未来
きっと良いことが
明日はあしたが
解決してくれる

今日のこの日を
精いっぱい
過ごすことにします

昨日はきのう
今日はきょう
明日はあした
良いことがありますように

そう思っていると
気持ちも
楽になってくる

春の日に

ー春の日にー

春の陽射しを受けて
大きく深呼吸をした

昼下がりの白い雲が
太陽を遮ると
少し肌寒くって
今まで肩にかけていた
セーターに腕を通した

愛した人を
抱きしめたような暖かさが
胸に届くのだ
やっぱり好きな人の傍がいい

春の白い雲は
何故だか昔のあの時を
思い出す

そして
歳をかさねた今も
懐かしそうに
あの日の君が
僕の前に現れるのです

恋心

— 恋心 —

愛しい人を
想うと
何故かせつない

手を伸ばせば
あなたの心まで
想いが届くのに

何かしら
躊躇してしまう

そんな自分を
嘆いているのです

好きなあなたに
早く会いたいの

名前って

—名前って—

思い出いっぱいの
学期も終わり
もうすぐ新学期

だからこそ
こだわって考える

名前って
顔と一緒に
一生のおつきあい

自分の名前は
好きですか

親が考えてくれた
ものだから・・・
あきらめてるんだ

でも・・・
生んでくれたから
感謝をこめて
ありがとうって
思わなきゃ

君のひとみ

ー君のひとみー

目が大きくなって
くりくりしてて
ブルーの瞳は
爽やかで・・・

じっと見ると
吸い込まれて
しまいそうなのです

涙目になると
輝きを増して
君の瞳に
恋してしまう

そんな僕って
どうなってるんだろう
大丈夫なのか

いい加減に
君と一緒にいたいって
思ってるのに

なんの行動もしないで
恋は君まかせ

そして・・・
君の瞳を
じっと見ている

そっと抱きしめたら
君の瞳が
楽しく笑っていた

雨の中で

—雨の中で—

傘を持ってくといひよ
僕はそこだから
返さなくていい
君にプレゼントだ

ひょうんなところから
二人の出会いが始まった

それは梅雨の始まりを
告げる頃の・・・
はるか昔の思い出

君はもう
覚えていないかも
知れないが
僕はずっと
覚えているんだ

梅雨になると
あの時の情景が
ふーっと
思い出されるのです

思い出したくない

－思い出したくない－

誰だって
悲しいこと
辛いことって
思い出したくない

でも
少しだけでも
思い出して
胸の中で
心の中で
確認しておかなくちゃ

何があったのかって
悲しすぎて
記憶も怪しくなって
思い出せないことも

そんなことの
ないように
日を決めて
思い出そうっと

そしたら
涙が出てきて
止まらなくて

悲しいことが
辛いことが・・・
涙とともに
いっぱい出て行って
気持ちが楽になったんだ

でんわ

ーでんわー

いろいろ迷って
受話器を取ったのに
ダイヤルボタンを
ひとつひとつ押すたびに
胸がドキドキしてる

最後のひとつになって
何故かためらって
受話器を置いてしまった

男のくせに情けない
僕って
そんなに気が弱かったのか

もう一度勇気を出して
ダイヤルボタンを押していく
今度は最後のひとつも押して
ルルウルルウ・・・もしもし

言葉はうわずって
上手く話せるだろうか
本人が出てこなければ
どうしようって

そんな時もあった
昔の出来事を
懐かしむように
今も電話って
ときめいてしまうです

雨が降ってるよ

ー雨が降ってるよー

雨だから
カラフルな傘・・・

派手な
レインコートに
賑やか模様の
長靴履いて・・・

くるくると
傘を回して
雨を飛び散らし

水たまりを探して
ぴちぴち
チャブチャブ
足踏みなんかして

もう・・・ほんと
よしなさいてば

そんな声も
うわのそらで
はしゃぎたくなる

こんな雨の日は
憂うつなはずなのに
何故か楽しい
雨の日があるのです

ただいま

ーただいまー

ただいまって
気楽に帰れる
心安らぐところ

何故だか
自分の家みたい

おかえりーって
誰かが家にいて
言ってくれる

そんな感じの
新しいふるさと

行きつけの店
訪ねてみると
おかえりーって
ただいまって
つい声がでる

ただいま・・・
おかえりー
そんな日常が
大切なのです

独りで
暮らしてると
ふっと思う
この頃なんだ

移ろいの中で

—移ろいの中で—

梅の香り
桜の香り
紫陽花も終えて

向日葵の時も
過ぎてしまった

そうなのです
秋桜色した季節に
なりましたよ

待ち行く女性（ひと）は
装いも新たに
軽やかに歩いて行く

僕の好きな女性も
秋模様になって

いろいろな
ファッションで
楽しませて
くれるんだ

秋への移ろい
ひとつ上着が
増えるだけで
こんなにも変わるのか

移ろいの中で
今日もさまよっている
僕がいるのです

墓参

— 墓参 —

住み心地は
如何かなって
女房に聞いて
みたのですが

早くいらっしゃって
言われちゃいました

えっ
もう少しこちらで
居てるよ

長いこと・・・
待ってるんだけど
いい加減にしなさいよ

そうか・・・
好きな人が
出来たのかなあ

まあ
すぐにふられるの
分かっているのだから

そうそう・・・
いっぱい楽しんでから
来なさいね

ありがとう
そうするよって
女房と話してきました
今日の墓参です

昔の扉

— 昔の扉 —

夕方が来て
夜が来て
そして
夢の中かも

昔の扉が
目の前に現れます

トントンって
扉を叩いてみた
昔と同じで
キキキーと扉が開く

懐かしい音である
中に入ると
今まで見たことのない
景色が広がります

家の中なのに
なぜか木々が生い茂り
小鳥たちが
一斉に鳴き出すのです

僕はびっくりして
慌てて扉を閉めます

今度は心の準備をして
何が起きても
大丈夫だと言い聞かせて
また扉を開けるのです

でも開け方もゆっくりして
やはり少し怖い

そんな気がしているのです

思いつき

そうそう・・・ホント！拙いよこんなポエム
すみません・・・成長します(笑)

－思いつき－

思い立ったら吉日
失敗なんて
当たり前じゃ

ダメでもともと
でも
うまく行くと
いいなあ

思いつき
やはりすぐ行動
早くしないと
忘れてしまう

詩作の時も同じ
思いついたら
すぐメモるのだ

そうそう・・・
思いついて
ひらめきじゃ

思いつけば
発明家なんだよ

夢の先は

昔の詩集、発行してから結構年数が経ってるし、詩ってマイナーの分野だから！・・・増刷ってないかもですよ

Kさんは・・・売れない詩人なんだから特にネ(笑)
そんなこんなで・・・？
こんなポエム・・・に！

—夢の先は—

良い夢を見たって
喜んでみたり

また同じ夢を
見れるかなあ

夢の先は
良いことばかり
いつもポジティブ

悪いことは
すぐに忘れてしまう
こんな性格って
良いよなあ

忘れるって
悪いことじゃないんだ
僕も明日から
始めようかな

羽根を怪我したトンボ

羽根を怪我したトンボ

ふらふらふら・・・満足に飛べなくなったトンボのふーちゃん？

がーブルトドの蝶々のちいちゃん・・・

どうしたのふーちゃん？

後ろの左の羽根の先っぽがとれちゃったんだ

片方も同じ様な長さに切っちゃうといい感じで元のように飛んでいけると思うんだ？

そうだね・・・でも良いの切り取って？

そしたら、私の口では切れないから加判の兄ちゃんに頼んでくるから涼しいところで待っていて

そう言ってちいちゃんは加判のかま兄（かまにい）の所へ行きました・・・。

ちいちゃん・・・かま兄に会えただろうか！

ふーちゃんはもう一度確認のために木の枝に止まったまま羽根を動かしてみる・・・ぶんぶんぶん・ぶるんぶるん、ぶるる・・・ぶるりん、ぶるりんこ・・・えっ？やっぱりバランスが悪いなあ

ふーちゃん、何してるの？

かま兄を連れてきたよ

今、羽根の点検をしていたんだよ

やはり後ろの右羽根を少し切った方がいいみたいだよ

そうそう・・・かま兄、ゴメンね忙しいのに

いいよ・・・ふーちゃん

それより満足に飛べなかったら・・・ちいちゃんと散歩も出来ないだろう！

どれどれもう一度羽根を動かしてごらん？

そうだね左の羽根を切っちゃって右側と同じ長さにした方がいいなあ・・・。

じゃ口で切るよ

少しずつ切っていくからね

チキチキ・・・チキチキ

チヨキチヨキじゃなくってごめんごめん

口で切ってるからチキチキなんだよ
これでだいたい同じ長さになったよ
ちょっと動かしてみて？

ぶんぶん・ぶんぶん・いい感じだよ
じゃあ・少し速く動かしてみて
ぶんぶんぶん・ぶーん、ぶーん
いいよ・いいよ、大丈夫じゃないか
ふーちゃん飛んでみてよ
そうそう・その辺りをちいちゃんも一緒に飛んでみて・・・。
じゃ・ちいちゃん
そしたら、かま兄そこで待っていて飛行状態を見ていて
くれない？
あぁいいよ

ちいについていける具合になってるから100%ではない
けれどまあいい感じだよ
ふーちゃん、もう少し速く飛ぶからついてきてみて？
かま兄の待ってる方向へむかってスピードをあげます。
ふーちゃん！どうにか大丈夫みたいだよ
かま兄・かま兄、どうかなあ
ちいちゃんはふーちゃんの飛行をかま兄に聞きます。

羽根が短くなった分、男前が下がったけどイケインしてスタイル
もいい感じで飛べてたよ
ふーちゃん？ちいちゃんが「ガールフレンド」で良かったね(笑)

ふーちゃん、何かあったらちいちゃんと一緒にまた僕のところ
へ来るといいよ

.....

童話に挑戦・・・！

童話的 poem？

そうそう蝶々のちいちゃん、かま兄のかま兄、トボのふーちゃん
がどうして友達かって？
それはまたのことにして・・・次のお楽しみに！

墮ちていく

良いことってあるのかなあ？

些細なことでも感謝の気持ちを持つようにしてると
フットした当たり前のことでも幸せに感じるのは僕だけ
なのだろうか・・・と考えてるのです。

— 墮ちていく —

ある日のこと

森の中を歩いていると
25メートルプール程の
大きさの沼がある

その水面はきれいで
鏡のように輝いていた

僕は森を歩いていて
汗をかいたので
顔を洗おうとして
沼地に足を踏み入れた途端

足から滑って
沼の中に落ちていく
へりに手をかけるのだが
これまた滑って
ますます深みに入っていく

悪いことをして
そこからなかなか
抜け出せないでいるような
墮落して深みに
墮ちていくみたいだ

落ちた振動で
普通は水が濁るのだが
何事もなかったように

水面はさざ波もたたず
輝いたままであった

そんなことを考えるより
早く抜け出さないと
いけないのに
ああーもう駄目だ

そう思ったとき
額の汗いっぱいとともに
目が覚めるのである

なんだ夢だったのか
まずは良かったよかった
もうこれで人生も
終わりかと思ったのである

ー墮ちる落ちるー

墜ちるところまで
墜ちるのもいい

落ちるところまで
落ちるのもいい

漢字が違うと
意味も違うのだが

墮落してしまって
運も悪い方へ
落ちてしまって

でも・・・
どん底を経験するって
あとはあがるだけ・・・

運が開けてきたり
幸せばかりなのだ

考え方も良い方に
考えると楽しくないか

しかし僕はまだまだ
生活も荒んで
墮落したままだ

そしていまだに
不運が続いている

不幸の主人公だと
自分自身が
そう思ってる
だけなのかも知れない

ラッキーセブン

僕のラッキーセブンのつたら好きな人と抱擁？したり、好きな絵を見たり(笑)・・・皆さんは如何でしょうか？

ーラッキーセブンー

幸運の7イニング
僕のラッキーセブンって
何なのかなあ

今は買った宝くじ
高額が当たること

真夏の夜の夢
多分そうなんだけど

生きてる間に
一度はウハウハって
ならないかな

買わないと
当たることはないし
買っても当たらないし
でも・・・
もし当たったらって
考えるし、そう思うよね

僕のラッキーセブンって
何なのかな

あきらめないで

—あきらめないで—

失敗・・・失敗

でも

一応最後まで

やってみることに

何とかなんとか

出来たみたい

やれば出来るんだ

あきらめないで

良かったよかった

万事失敗はつきもの

そう思えば・・・

どんなことも

挑戦できるんだ

そして

気も楽になる

とりあえず

トライしてみるんだ

好きになると

詩作するきっかけが・・・なかなか出来ない。

さあ・・・ポエムを作ろうと言っても、ずっと書ける訳じゃない。

何気に思い浮かんで来ることが多くある。

そんな時は、決まって外出していることが過去にはあった。

だから常にバックを持って筆記具をしのばせているんです。

－好きになると－

今日も・・・

君を見ているか

いつも見ているか

明日も見ているだろうか

好きになると

毎日見ていたい

毎日楽しくなるか

嫌いよりは・・・

好きな方が良さだろう

明日も君を見て

楽しんでいる僕がいる

そんな夢を見てしまった

君を好きになると

夢を見る日が多くなった

いけないことだろうか

そして明日になると

好きな君と抱き合っている

水無月は

—水無月は—

空の青
海の青
雨を忘れた
水無月かな

r a i n y d a y は
やはり雨が
似合うのです

目が楽しくなる
カラフルな雨傘

明日は雨が
降らないかなあ

田畑に引いた
水が輝き
苗の緑が眩しい

そして
露に濡れた
紫陽花の花が
雨を待っている

愛しい君を
待ってるように
僕には
そう想えるのです

希望と夢と

ー希望と夢とー

希望と夢って
まずは健康なんだよ

元気があっても
お金がないし

資金がなくなっても
大丈夫かなあ

希望と夢が
叶うのかなあ

お金が出来ると
病気になったりして

夢って
いつでも見れるし

でもハッピーエンドで
終わったことがないし

良いところで
目が覚めるし

僕の
希望と夢って

元気で楽しく
過ごせることかなあ

元気ですか

—元気ですか—

便りのないのは
元気な証拠って

誰かが
言ってたけど

毎日でも
連絡取って

元気だよって
言わなくても

メールで
連絡があると
何故だか
嬉しくなる

今の世の中
郵便事情も
ほんとうに便利

食事するように
言葉の食欲も
ありなんだよね

天と地と

日曜礼拝の説教題に創世記1章1-4・・・初めに神は天地を創造された。
地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神は霊が水の面を動いていた。
神は言われた。「光あれ」こうして光があった。
神は光を見て良しとされた。
新共同訳の聖書での旧約聖書1^o-^oジのことばである。

過去のことでありますが、実家にあるカトリック教会での礼拝に出席した時
(カトリック教会の病院で、母が亡くなったことからお祈りの案内があった
のです)に礼拝最初のメッセージがこの部分だったのです。
そして、その後に^oトサウトの教会でこのことばを久しく聞き、当時の
ことを思い出すことになったのです。
聖書を知らない方々であっても、お馴染みのこのメッセージは、聞いた
ことがおありじゃないかと思います。
聖書を初めて読んだとき、この先どうなるのかドキドキした記憶があり
ますが・・・一言一言に説明がないと理解できないことも未だにあるの
です・・・ほんと・・・未熟者です。
何か詩編のようなポエムになっちゃいましたが！

一天と地と一

天は地上の
すべてを見下ろし
光は地上の
すべてを照らし

今日という日を
見守っている

そして・・・
生き物すべて
太陽のもとで
育まれ成長する

暗闇の中でも
いつの間にか

一筋の光が現れ
進む道を指し示す

私たちの明日は
光によって導かれ
遮る何かがあっても
いずれは光が
降り注ぎ

私たちに
夢と希望を
与えてくれるのです

未来って

ところで、どうしてこのようなポエムになったの・・・ってツッコミは
しないで下さいね？これでも精いっぱい・・・頑張ってるんですよ！

ー未来ってー

楽しいひとときは
今日に消えても
明日へとまた続く

そうなのです
明日と言う未来は
いつまでも続き

私たちのために
希望と夢のために
未来ってやつは
待っていている

だから
いつも前を向いて
ポジティブに
そして健康で
なければと思ってる

今日という日に

— 今日という日に —

ふりかえり
またふりかえり

今来た道を
じっと見ている

誰かと
来たことのある道

思い出しては
何故か涙が流れて
止まらない

あの頃は
確かに若かった

その若さゆえに
いろんなことが
駄目になってしまった

今日という日に
そのときの想いを
ふりかえっている
自分がある

気分を変えて

人の意見って大事なんですよ？

何かをする時に10人の人に意見を聞き、せめて5人がOKでないと止めたほうが良いと言われたことがあります。

自分自身が迷ってる時なんかはほんとうに役立ちます。

10人が無理なら5人でも良いと思うのですが、皆さんは如何ですか？

—気分を変えて—

マンネリ気分

嫌な気分

何かない・・・

フレッシュなこと

それにしても

思いついたり

心機一転をしたり

しなかったり

何かに

挑戦したいとき

僕なら気分転換を

歩く道を変えたり

ひげをのばしたり

服を替えたり

散髪したり

気分を変えて・・・

気合いを入れたり

しないことをしたり

気分を変えて

頑張ろう・・・

明日と言わず

今日から始めよう

この旗とともに

敗れても、負けても、失敗しても・・・

そんなことで負けてはいけない、懲りもせず何回でも何度でも

挑戦するんだよ・・・そしてそして・・・前に進んで行く

必ず一步一步進んでるものね！！

なんかラグビー-みたい・・・でも前に進むって良いものですね

One for all、All for one

—この旗とともに—

強き心を

勇気にかえて

僕の弱いところを

支えて下さい

勇気を出して

前に進め

勇気という

旗のもとで

僕たちは

みんな一緒に

進んでいく

弱き心も

強き心も

ひとつになって

たくましくなった

勇気のもとで

前に進んで

行くのです

ひみつ

ーひみつー

僕のひみつ

それは・・・

心にとめておくもの

明らかにはできない

だから・・・ひみつ

何をされても

人には言えない

秘密があるって

大変で疲れてしまう

そして

相談もできない

だからひみつなんだ

誰にも言わず

心の中にある

ひとりの楽しみ

でも反対に

苦しい辛い秘密も

だからいずれは

人に話して

気持ちを

楽にするのです

君と歩いた日々

こんな馬鹿なことって・・・Kさんだけじゃない？
でも・・・夢より現実が良いわね・・・。
えっ、そりゃ・・・ほんとですよ？
僕も夢でないように頑張ろうっと（笑）

ー君と歩いた日々ー

いつだったか
君と歩いた
あの日・・・

そばで
君の息づかいが
聞こえると
不思議と
心がなごむのです

あの日は
まだ春には遠い
大寒の頃でした

でも陽射しは
春の気配がして
肩をよせあって
歩いていると
心ときめき
k i s sをした

今日は大寒・・・
暮れゆく黄昏のときに
何故かあの日を
思い出すのです

そう君と歩いた日を
また思い出したのです

追想の日のなかで

— 追想の日のなかで —

遙か昔・・・
いつだったか
若かりし頃

過去を思い出しても
仕方がないのに

突然に・・・
あの時の光景が
無意識に現れる

心までが
寂しすぎるのだろうか
あの頃は若かった

追想のなかで
僕は今・・・
好きな女性のことを
思い出している

そして
あの時と同じ
恋心になってる
自分がある

電話でね

ー電話でねー

リンリン・・・

はあ～い

なあ～に

えっ・・・

今からなの

何処で

ええ・・・良いよ

それじゃあね

会ったときに

詳しく言うよ

そしたらね

リンリン・・・

言い忘れてたよ

好きだよ

なんだそんなこと

会ってから

言えばいいのに

母の声

些細なことでも忠実であれば大きな事も任せてくれる
これは納得ですよ。
小さいからっていい加減だと仕事は任せてくれない。
う～ん・・・さすがに商売人だわ
敬老の日、何故だか父よりも母を思い出してしまいます。

－母の声－

母の呼ぶ声が
聞こえる
僕には
何か聞こえない

もっと
近づいてみよう

元気にしてますか
確かそう呼んでいる
もっともっと
近づいてみる

元気ですか
やっと聞こえた

僕は元気ですよ
お母さんは？
また帰ってきたら
真っ先に
会いにゆきますよ

コオロギ

何故だか？

童話風になってしまいましたあ・・？！

これはこれでいいかもです。

挿し絵があればいい雰囲気の話になりそうです。

ーコオロギー

家の中にコオロギが遊びに来ました

こんばんわ

そう言って飛び跳ねて挨拶するのです

何て礼儀正しいんだ

友達も一緒に飛び跳ねます

僕は嬉しくなって

買って来たばかりのキュウリを輪切り

にしてお皿に入れフローリングの床に

置いてあげました

リーリーリって鳴きながら

美味しそうに食べています

いいところに来たね

ほんとうにラッキーだよって話しながら

鳴いています

秋はほんとうに楽しいね

いろんな虫たちの季節だね

年金生活

石川啄木の詩じゃありませんが・・・。

嗚呼・・・こんな poem にすると・・・！

啄木さんに叱られそうですよね？

－年金生活－

年金生活・・・

年金生活って

そうそう・・・

年金生活って

我が暮らし

楽にならざり

じっと手をみる

6月の風

－ 6月の風－

梅雨は未だ
始まっていない
曇り時の夕暮れ

少しでも
雨が降ると
木々が大きく
背伸びして

いい気持ちって
喜ぶのです

そして
風が吹くと
待ってましたって
枝をいっぱい伸ばし
葉をそよぐように
するのです

ざあざあ・・・
サワサワ・・・

遠くで聞くと
話し声のように
聞こえます

6月の風は
おしとやかで
少し火照った
身体には
優しい風なんです

びよびよおん

ーびよびよおんー

びよびよおんとペペえん

これって美味しいね

・ ・ びよびよおん

これ不味いよ

・ ・ ペペえん

なあに ・ ・ びよびよおんって？

それから ・ ・ ペペえんって

変なことば ・ ・

訳が分かんないよ

まあまあ ・ ・

面白い響きの言葉遊びなんだよ

何の意味もない

テンツク ・ テンツク ・ ピンチャンっとね

道化師が踊って水溜まりに足をつけちゃった

靴の中はもうびちゃびちゃ

不思議に愉快になってくる

変な言葉を発すると

大笑いして ・ ・ 大受けなのだ

最後はびよびよおん ・ ・ !!

とても大好き

—とても大好き—

小生意気な女子？
大学院生で何故か理屈ばい
でも・・・
仕草が可愛いんだ

ルックスも子供っぽい
何故か憎めない
素敵なギャップ

えっ・・・
こんなこと出来るの
すべて伝えられない個性

笑顔をむけられると
いつもに増して
胸がドキドキするんだ

貧乏も経験しているし
いろんな話題にも事欠かない
君は一体誰なんだって

そう言わせてしまう
不思議ちゃんで
少し困った存在の
大好きな女性

つまずいても

—つまずいても—

つまずいて転んで
また起きて・・・
七転び八起きじゃあるまいし
7回転んで8回目で
起きなくてもいい
それ以上転んでも起きてても

いやいや
いくら転んでも
最後には起きるんだ

人生って
転ぶばかりじゃないんだ
起きて・・・
しっかり立ち上がって
どんなことでもくじけずに

何事もなかったように
前を向いて歩いていく
いつの日も・・・
いつまでもいつまでも

風よ教えて

—風よ教えて—

風よ教えておくれ
あの時のことを
二人が愛しあった時のことを

遙か昔のことなので
忘れてしまったんだ

風よ教えておくれ
あの時のことを
二人で歩いたあの道を

遠い昔だよね・・・
道も変わってしまって

風よ教えて
あの時のことを
二人で見たあの景色を

忘れてはいないのだが
ぼやけてしまってるんだ

いい夢を見て

—いい夢を見て—

いい夢を見て

楽しいことばかり考えて

良い出来事に出会って

よい食事をして

良いことばかりだと

これまた反対の出来事に

なってしまうと

大変なことになってしまう

常に最悪のことを

考えてると

これまたネガティブになって

心まで暗くなってしまう

何事もポジティブ思考で

でも・・・

少しは最悪のストーリーを

描いていて

とっさの判断が出来るようになって

思っているのです

生きている

—生きている—

また歳をとった
いつの間にか
ほんとにいつの間にかなのだ

歳をとるって・・・
大変なことであるが
同じ年代らしい人を見ては
僕の方が若いって
誰しもがそう思っている

ビジュアルだけでも
若く見られたいよって
髪を染めてみたり
このほくろ・・・
どうにかならないかって
鏡をじっと見ていたり

背筋を伸ばしてみたり
歳をとるって大変だ

そうなんだ
だからなのか？
ある年齢からは
歳をとらないってことに
勝手に決めてみたり

またまた
歳をとった・・・
これからも
上手に歳をとりたいよね

罪と後悔と

罪を許されても罰が残り、その後の生活は罰を償って生きてゆくことになるのであると・・・この日の日曜礼拝の結びの言葉となった。

原稿記事を書いてたら、突然に意味不明の難解なpoemになりました。やめとこうのバルですけど・・・せっかくだから掲載します(笑)

－罪と後悔と－

順風満帆・・・

行く手に遮るものは何もない
波を蹴って早く・・・はやく
船が進んでいく感じなのです

人生って

そうは甘くはない
誰だってそう思っている

そして心の罪なのだが

あわよくば人を押しつけてでも
前に行こうとする欲望もあろう

すでに罪を犯しているのだが

一刻も前に行かなきゃって
一番乗りを競うこともあろう

先頭に立つって

後から来る人には迷惑な奴だって
思われてるだろう
そう思った時点で罪を犯している

そんなことを考えていたら

何もしないに越したことがないって
思っていまい勝ちになるのだが

でも少しでも他人よりは

上に立ちたいって思ってしまう

人間の浅はかさなんだろう

いろんな事を考え

いろんな事を思ったりしてるんだ

悪いこと

－悪いこと－

急な被害にあったり
心配事が出来たり
命にかかわる
不安があったり

死に直面するような
恐怖におののき・・・
その場に立ちすくんで
何も出来ない
身に危険の迫りそうな
そんなときって
やはり怖いことです

人って弱いんだ
いやいや・・・
人って強いんだ

いろんな人達の
支えがあって強くなる
いろんな知識で
もっともっと強くなる

悪いこと・・・
不幸な出来事って
いろんな経験で
安心、安全がかなう

そしてそして・・・
災い転じて福となる
いつも気にかけていなくちゃ

挨拶とありがとう

－挨拶とありがとう－

おはよう・・・
こんにちは
挨拶で始まる
実家での生活

ここではいつも
当たり前のように
声を掛け合っている

エレベーターもそうだ
扉の開放ボタンを押して
待っていてくれるのだ

お先に行ってくださいと
眼で合図すると
よろしかったですか？

気遣いありがとう
いろんな些細なことでも
心まで豊かになるのだ

そして・・・ありがとう
ちょっとしたことでも
感謝されると
嬉しいものですよ

バイクが空を飛ぶ

ーバイクが空を飛ぶー

バイクが空を飛ぶ
嘘だろうそんなこと
平和だからね？
なんでもありなんだ

走っていて「空へ」って
ブレーキを踏んで
呪文を唱えるんだ

すると眼には見えない翼が
ペダルの横から
まるで人が手を広げるように
飛び出てくるんだ

トントンと
翼を広げるよって
足元に知らせてくれるんだ
すごいだろう

僕は名付けたんだけど
2輪飛行機って言うんだ

今度ね後ろに乗っけてあげるよ
そして後部シートに
垂れ幕を付けるんだけど
なんて書こうかな

平和のメッセージを書いて
いろんな催しの時に
空を飛ばうと思ってるんだよ
だからいっしょに飛ばうね

空は青い

ー空は青いー

空は白いよりは
青いほうがいい
雲は少しあってもいいが
すべて青い空がいい

女性は可愛いほうがいい
美人も良いけれど
可愛い人は
いつまでも可愛いんだ

可愛いって顔だけじゃない
心も可愛いんだ
心が可愛いと
顔までも・・・
ますます可愛くなるんだ

ほんとうに不思議なんだ
だから僕は・・・
可愛い人が大好き

可愛いって思うのは
人それぞれ・・・
十人十色ですけど
そういませんか

雨の一日

－雨の一日－

雨の日の静けさ
そして
空はどんよりした
灰色に包まれている

強い雨にあおられて
散ってしまった
青い葉が
雨の雫にひかる頃

今年もまた我が家の
父の日がやってきた

子供たちの足音が
軽やかに聞こえてくる

採り残された
青い梅の香りが
元気だったって
挨拶の声とともに
漂ってくるのだ

夢をみた

いくつになっても夢や理想を追いかけるって楽しいですよ？
実現しなくたってそれはそれは魅力的で素晴らしい人生じゃないかって
そう思いませんか？

それと生きるのは苦しくて大変だけど何故か楽しいですよ？
何事もポジティブポジティブって・・・?!?
あきらめたらお終いなんだからね？
そんなこんなで・・・こんなpoemに(笑)

—夢をみた—

夢、ゆめ、ユメ
・・・ドリーム？
D r e a m・・・

いい夢をみたら
みんなに話さなきゃ

こんな夢みたよ
正夢だといいなあ

夢でも見れるって
羨ましいなあ
僕も見れるかなあ

いい夢って
人それぞれだけど
早く家に帰って
眠りたいよ

でも・・・
どんな夢を見るのかな
見てからのお楽しみ

励まし

私的ですが私が勝手に親しみを覚える人たち？

何故か惹きつけられる魅力というか、勝手にアツというか、波長が合うと
いうか、世の中には逢わずして巔頂にしたい特別な人がいます。

プロ野球：金子千尋さん、政治学者：加サツヅンさん、政治家：志位和夫さん、
元サッカー選手：森島寛晃さん、男優：大地康雄さん、女優：東ちづるさん等々！
最近は天地真理さんがいらっしゃいます・・・皆さんは如何ですか？

ー励ましー

上手、上手って
ほめるんだ
目の前がひらけて
元気と勇気が
湧いてくるに違いない

長所が
認められるって
何にも代え難い
喜びだと思う

やる気の出てくる
励ま시를
どれだけ人に
与えているのだろう

まずは
自分自身を
励ますことにします

生きる

日曜礼拝、気になった招きの言葉（招詞）・・・？

老人を叱ってはなりません。むしろ、自分の父親と思って諭しなさい。年老いた婦人は母親と思いなさい・・・テヘへの手紙1の5章1,2なのですが・・・僕自身が該当しそうな歳になりつつある現実を思いながら・・・今までこのことが出来ていたかと思うと反省しきりなのです。・・・今からでも注意したいと思うのです。

－生きる－

悲しいことも

喜びも・・・

楽しいことも

生きていると

いろんなことが起きる

生きるって

大変なんだから

悲しいことが多いほど

大きい幸せがやってくる

喜怒哀楽・・・って

怒ることを堪えて

楽しくしてると

喜びも大きくなって

返ってくるんだ

怒る顔は怖いし

好かれないんだよ

笑顔が一番だよ

周りに

いろんな人が

集まって来て

楽しさが

いっぱいになるんだ

生きるなら
楽しいことの
多い方がいいよね

不器用

ここだけの話・・・。

この間も・・・買い物帰りのことなのですが、サイドブレーキをかけたままで車を走行していたのです。

・・・何かランプが点灯してると思ったのですが、近くの信号で停車したときに気付くなんて・・・もうもう糞！・・・としよりなんだから？

とととと・・・なんてことを理由にしたりして(笑)

—不器用—

仕事はテキパキ

器用って人から言われるのに

何故だか

折り鶴が折れない

不器用な人間なんだ

でも独りになった僕は

昔のお気に入りの

カーデガンの袖に

穴があき・・・

直すんだと言って

ソーイングケースを

出してきた

裁縫なんかを・・・

出来そうもないのに

この頃は何故か

主夫業が・・・

さまになっている

クラシック音楽を

聞きながら

縫ったところの

袖を通すのです

まだまだ着れるよ

このカーデガン
新しく買ったのを
着ればいいのにね

懐かしい顔

電気科のクラスメートから電話があって同窓会をするのだが、参加しない
かって携帯に電話があり・・・いいなあって思ったのですが、地元の行事が
あり欠席することに！

いろんな行事等の誘いがあって、孤独感がないって良いことですよね
同窓会って聞いてこんな poem に！

－懐かしい顔－

なにげに・・・
過去の思い出が浮かび
アルバムを紐解いてみる
ある頃は
何をやってたんだろう

一人一人の
顔を見ては
そうそう・・・
そうなんだって
いろんな事を
思い出す

懐かしい顔・・・
皆んな元気だろうか
僕も生きてるんだから
元気にしてるだろうって

今になって
会うことが出来れば
誰だか
分からないんじゃないか

そんなことを
考えている・・・
やはり一人だから
人恋しいんだ

仮面をつけて

ー仮面をつけてー

仮面をつけるって
顔を隠すんだ
そうなんだ
今からよからぬ事を
するんだから・・・

顔を見られちゃ
大変なんだからね
皆んなそうなんだよ
サングラスをしたり
マスクをしたり・・・

これらのグッズって
仮面と同じだ
なかにはほんとうに
眼の悪い人や
風邪をひいちゃった人も
いるんだけどね

でもよからぬ事を
するって・・・
必ず仮面をつけた
人なんだと思う

誰にでも怪しいって
感じがして
すぐに分かっちゃうのに

心にまでも
仮面をしてるって
怪しいって
なかなか思えない

でもフレンドリーで
人なつこいって
怪しいとは思えないよね

しかし普通で考えると
何故だか・・・
うさんくさいんだけど
まあ良いかって
外観で判断してしまってる

僕もやはり仮面をつけて
よからぬ事を
してみようかな

いやいや仮面なしで
よからぬ事を
したほうがいいに
決まってるって
勝手に思ってるんだ

でもね・・・
正体が分からないって
何かワクワクしない

よからぬ事じゃなく
良いことをするにも
仮面をするじゃない
正義の味方的で
格好がよくって
そのための仮面って
一度はやってみたいよね

ようこそ・・・愛しき君へ

ーようこそ・・・愛しき君へー

ようやくめぐり合えた
二人なんだから
いつまでも仲良しでいたいよ

愛してるって
はずかしくって言えないけど
大好きなんだ

ありきたりの言葉・・・大好き
これだけでも照れくさくって
口に出して言えないもどかしさ

だからp o e mで伝えることに
そして今日はここまでに

ほんと・・・ようこそ
愛しき君へ
僕からのメッセージを伝えます

ありがとう・・・
これからもよろしくです

僕からあなたへ

ー僕からあなたへー

あなたへ・・・
それは僕からの
贈り物・・・

何がいいだろう
気持ちの
込めたものをもって
思うのだけれど

元気な姿を
見れるだけでいい
そう言う君へは

やはり心のこもった
感謝の気持ちを
贈りたい

僕からあなたへ
誕生日にちなんだ
指輪にします

そして
君への口づけを
贈ります

秋色に染まる日々

ー秋色に染まる日々ー

恥じらいの
君の顔・・・
色づく葉に似て

どちらも秋模様
そしてきれいだ
見とれてしまう

秋桜が
風に揺れて
君の心も
何故だか
揺れている

秋色に染まる
彼方へと
君は・・・
消えてしまうのか

嗚呼・・・
愛しき君よ
春にはきつと
戻ってくるって
約束したのだから

僕は冬を耐えて
じっと
待つことにします

今年の秋色に
染まる日々は
とても寂しく
感じるのです

君にもう一度会えるまでは

郷愁

— 郷愁 —

ふるさとにむかって
叫んでみたか

ふるさとにむかって
お願いしてみたか

ふるさとにむかって
失礼していないか

いつぞやは
お世話になったと
あのときは
いろいろ有り難うって

ふるさとは
想うものだけでなく
帰ってみることなんだ

そしてそして・・・
ふるさとにむかって
今から帰るぞっと
叫んでみるんだ

父母の声が
聞こえてくる
早く帰っておいでって

だから
ふるさとに帰ると
一番に
また帰ってきたよって
伝えるんだ

a t o g a k i

薫風香る皐月の季節、緑色した若葉がやけに輝いて、昔に大好きだった女性の瞳を不思議に思い出しているのです。

こんな時こそ絶対にいい詩を作らなきゃと全身に力が入ってしまいます。

これじゃいけないのですが、常に平常心で自然と詩が浮かんでくるようにと気持ちはリラックスを心がけているのです。

大丈夫、きっと皆さんにも感心してもらえるポエムが作れていると思っているのですがうむ…そうでもないか？いつもの拙いポエムだよって言われそうですね。

ところでm o k u j i (もくじ)の部分で100篇の詩を五つに区分し、章立てはしていないのだけれど、括弧内にその時の気分を表示してみました・参考になさってください。

そして出来上がった詩は、いつもなら色紙に書いてプレゼントしたり、プレゼントの品物に同封してお渡しするのですが、今回は電子書籍で執筆の刊行となります。

この第5集の詩集：風の旅人、ふるさとを訪ねたり、自宅に隣接する市や県に出かけちょっとした「詩作の旅」の途中で風に吹かれ、風と語り合い？ロマンチックなポエムが出来上がるといいなあと思っていて、出来上がった作品なのです。

しかしながら詩集を読み返してみると、お勧めするようないい詩が作れてなく残念な結果となったものもありますが、こうして第5集の詩集が実家のあるうどん県（香川県）にある瀬戸大橋の見える最高のロケーションの地で完成したことを非常に喜んでいて詩作旅行っていいなあと思っているのです。

そして皆さんに共感していただける詩がひとつでもあれば幸せだと考えています。

最後に電子書籍として詩集出版の場を提供下さったPUBOO様そして暖かい激励といろいろと応援下さった友人、諸先輩方の皆さんに感謝申し上げたいと思う。

瀬戸大橋の見ゆる東山魁夷せとうち美術館

にて

2018年5月23日（キスの日）

飛鳥 圭

風の旅人

<http://p.booklog.jp/book/121878>

著者：飛鳥圭

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/sanbika21/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/121878>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト

(付記)

飛鳥 圭に関する詩集の出版履歴など

1991. 7 詩集：憧れと愛を求めて 発行：朝日カルチャーセンター

1994. 3 詩集：風と愛と君と 発行：日本図書刊行会

発売：近代文芸社

電子書籍

2018. 4 詩集：明日の夢時計 発行：パプー（第3集の執筆完成）

2018. 4 詩集：憧れと愛を求めて 発行：パプー（初版の再版、編集完成）

2018. 5 詩集：夢は遙か彼方へ 発行：パプー（第4集の執筆完成）

2018. 5 詩集：風の旅人 発行：パプー（第5集の執筆完成）

初の小説

2018. 5 追想の日々（上） 発行：パプー

2018. 5 追想の日々（下） 発行：パプー（執筆完成）